

生きた知識を身につけた 「相続発生時、真に役に立つ」 FPが増えることを期待します

巷では「終活」がある種のブームになっている。終活支援に携わるFPも多いが、安易な提案がかえって遺族に迷惑をかけてしまうケースもある。そこで、遺品整理の現場から見た終活支援のポイントについて、吉田太一・キーパーズ有限会社代表取締役にお話を伺った。

ご遺族の喜ぶ顔を見て 日本初の遺品整理業を開始

—— 御社は、これまで1万5000件以上の遺品整理を行ってきた「遺品整理のパイオニア」ですが、遺品整理業を始めたきっかけは何だったのでしょうか。
吉田 あるご自宅へ引越しのお見積もりを訪問した際に家財の搬送をお受けしたのですが、そのほかにも荷物がたくさん残っていましたので、お聞きすると、これから引き取ってくれる処分業者やリサイクルショップを探すとのことでした。

実は当時、私は全国初の「ひっこしやさんのリサイクルショップ」も経営していましたので、買取も含めすべてをお受けするお話を提案したのです。すると、「すべてを引き受けてくれるなんて、神さまみたい！」と、とても喜んでくださったのです。そこには、お父さまの遺影と骨

壺がありました。このとき初めて、引越しではなく、親の遺品整理を行っているのだとわかったのです。

お客さまの喜ぶ様子を見ていて、「同じように遺品整理で困っていないか」と思いました。あとでネットなどで調べてみると、「遺品整理業」を手掛けている会社はありません。「誰もやっていないのであれば」ということで、2002年に日本初となる遺品整理業を始めたのです。

—— 改めて、遺品整理とは何かをお聞かせください。

吉田 遺品をごみとして扱うのではなく、故人の生き様が表れているのだと捉え、丁寧に整理していくことです。遺品整理を通じて故人の生き様に触れることで、ご遺族がこれから生きていくための糧としていただきたいと思います。

当社では、遺品を整理するところが体力的に難しい方や、遠方

キーパーズ代表取締役
吉田太一

